

 WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

## 2016.11

No.391

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# 夏水たんぼのシギ・チドリ

佐野 和宏 (越谷市)

## ● 栃木県小山市の夏水たんぼ

目の前に広がる夏水たんぼでオグロシギやエリマキシギ、コアオアシシギなどが忙しそうに嘴を振っています。

2016年9月22日、この日の松伏記念公園探鳥会は雨で中止となり、そのまま午後に予定していた栃木県小山市へ向かいました。まだ雨足が強い中、たんぼを求めてシギ・チドリを探し始めましたがどこも空っぽです。今日は運がなかったかな?と諦めかけたところでやっと大当たり。コチドリやタシギなども合わせ20余羽が一枚のたんぼで採餌中です。種数や個体数は東京湾の干潟の賑わいには遠く及びませんが、「あっ、ここにいた!!」は、他では味わえない感動です。

夏水たんぼは主に麦の収穫が終わった畑に、連作障害対策として夏季に水を張るもので、麦作の盛んな小山市に多く見られます。

近年は埋め立てなどで失われてしまいましたが、江戸時代までは関東平野にも広大な湿地が残っていたようです。この湿地が失われてしまった今、繁殖を終えて越冬地へ向かう内陸性のシギ・チドリにとって、この夏水たんぼは貴重な中継地で、渡りの成否に重要な役割を果たしているはずです。

小山市では、野鳥の“たんぼ利用”に積極的で、すでにハクチョウ類やコウノトリの冬場の餌場を提供する目的で、冬水たんぼを実践しています。同様の取り組みとして有名なのは宮城県伊豆沼や蕪栗沼の周辺で、冬季の水田に適度の水を入れ、マガンの餌場としています。

## ● 県内のシギ・チドリ調査



埼玉県内にも夏水たんぼがあります。春日部市の倉常地区は、小規模ながらやはり麦の産地で、夏季に水場ができます。川越市には、旧南古谷村のあった地域が今でも“南古谷”と呼ばれ、ここにも多数、夏水たんぼが出現します。これに加えて同市には水の増える夏場でも干潟の残る伊佐沼があります。県内では唯一、通年シギ・チドリが見られる環境で、これまで多くの水辺の希少種が観察されています。

渡りのシギ・チドリもご多分に漏れず減少傾向となっています。原因としては繁殖地や越冬地の環境悪化が指摘されていますが、内陸を利用する種については、農政の転換などの理由で急速に夏場の水場が減ってきているのも影響しているかもしれません。

そこで実際にどのくらいの水場があり、どのくらいのシギ・チドリが県内を通過しているのか知りたく、有志の皆様のご協力を頂いて、今夏、7月23日から調査を行ってみました。いきなり難しいことはできないので、記録は観察日、観察場所、観察種、個体数のみとしました。この原稿を書いているのは9月



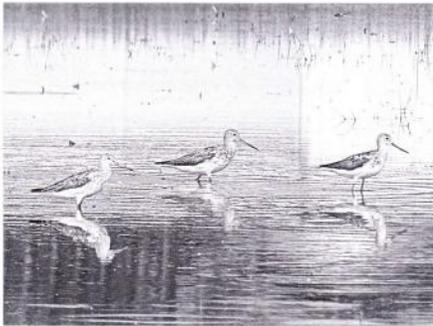
27日ですが、この時点での県内の記録は以下の通りです。

**チドリ科 4種（\*：留鳥）**

ケリ\*、ムナグロ、イカルチドリ\*、コチドリ  
**シギ科 14種（\*：留鳥）**

オオジシギ、タシギ、オグロシギ、ツルシギ、コ  
アオアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシ  
ギ、イソシギ\*、トウネン、オジロトウネン、ヒバ  
リシギ、サルハマシギ、アカエリヒレアシシギ

この結果を多いと感じるか、少ないと感じるかは人それぞれかと思えます。ただ、2016年の記録として、来年以降の観察の参考にさせていただければと思います。



● **内陸性のシギ・チドリ**

三番瀬や谷津干潟は有数のシギ・チドリの観察ポイントで、実際に多くの種が観察できます。内陸性のシギ・チドリの多くはこれらの干潟環境にも立ち寄りますが、例外もあります。

オジロトウネンやオオハシシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、ヒバリシギ、ウズラシギ、エリマキシギなどは内陸での観察例が圧倒的に多く、オオジシギ、チュウジシギ、タシギなどのタシギ属、通称“ジシギ”やクサシギ、タカブシギなどはまず干潟では見られません。これらの内陸性のシギ・チドリを、是非“たんぼ”で観察してみてください。

また、これらのたんぼに行くには、公共交通機関では困難なところも多いので、プライベートで連れて行ってくれる人を探すのがい



いでしょう。

● **ジシギ**

今年の収穫としては多くのジシギが見られたことです。昨年「どこのたんぼにもいるはず」との話を聞き、近場の水田で畔をのぞいてみました。するとこれまではシーズンに1～2回見かける程度だったものが、思いのほか多くのジシギがいることがわかりました。いつもは、不用意に近づいて飛ばれて初めて気が付くのですが、そっと覗いてみるのがポイントのようです。

今年の7/24～8/14までに観察できたものは、すべて飛ばずに写真が撮れたので、ジシギに造詣が深い方に識別をお願いしました。この結果、あくまで私見との前提でしたが、すべてオオジシギという判定となりました。

来年は是非、お近くの水田でジシギを探してみてください。



※写真はすべて筆者

- P2下 夏水たんぼ 栃木県小山市
- P2右上 エリマキシギ 春日部市
- P3左中 アオアシシギ 行田市
- P3右上 タカブシギ 行田市
- P3右下 オオジシギ? 春日部市

# 2016 年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日 時：2016 年 9 月 19 日 9:40～11:15  
 場 所：さいたま市 大久保農耕地  
 天 候：雨

3連休の最終日は、前線が本州付近に停滞し、雨となってしまいました。悪天候にもかかわらず7名の協力が得られました。ありがとうございました。

ほとんどの田は稲刈りが終わっており、A区でタシギが44羽、ムナグロが13羽確認され、昨年に比べると両種とも多く観察されました。これは、雨のため田が湿っていたのに加え、サイクリングをしている人がほとんどいなかったことも影響しているのかもしれませんが。

また、今回は人数の関係でA'区を除いて調査を行いました。いつものように全区で調査をしていけば、シギ・チドリ類がもう少し観察された可能性はあります。



下の表は過去 10 年間の調査結果をまとめたものです。それ以前は「しらこぼと」2012年12月号 (No.344) をご覧ください。

※表の中の「タシギ属不明種」、「シギ科不明種」は、種数には入れませんでした。

(石井 智)

秋 の カ ウ ン ト 結 果 (大久保農耕地)

年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
調 査 日	9/17	9/15	9/21	9/20	9/19	9/17	9/23	9/15	9/23	9/19
天 候	晴れ	曇り	曇り	曇り	晴れ	晴れ曇り	曇り	曇り	晴れ	雨
1 ムナグロ	8	70	8					17	1	13
2 オオジシギ	2									
3 タシギ	15	4	9	5	7		21	23	1	44
4 オグロシギ							1			
5 クサシギ	3									
6 タカブシギ	7									
7 イノシギ		1								
8 タマシギ	2									
タシギ属不明種	2			1			7	4	6	
シギ科不明種	1									
合 計	40	75	17	6	7	0	29	44	8	57

※2013年の本調査(9/16)は台風のため中止したので、参考調査の記録を載せました。

## ●アネハヅル

英名 Demoiselle Crane

学名 *Anthropoides virgo*

分類 ツル目ツル科アネハヅル属



2016年9月2日夕方、さいたま市西区の荒川河川敷の農耕地で、本会会員の山田東二氏により1羽のアネハヅルが撮影され、当委員会には上掲写真ほか2枚が寄せられました。氏の話に拠れば、「この日午後4時過ぎ、アネハヅルが稲刈りあとの田んぼで採餌している、と知人より連絡があり、証拠写真だけでも、と急行した。午後6時40分ごろまで観察し、ツルはその場で一晩過ごしたようだが、翌朝午前4時ごろ、近づいてきた自動車に驚いて北の方角に飛び去った」とのことです。当委員会は写真を検討した結果、335種目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

本種は「日露渡り鳥条約」指定種であり、近県では茨城、千葉、東京で記録されています。

## ●ミナミクイナ

英名 Slaty-breasted Rail

学名 *Gallirallus striatus*

分類 ツル目クイナ科ヤンバルクイナ属



2016年9月4日午前11時ごろ、川越市内の休耕地で、島田猛靖氏（未入会の方）により1羽のクイナ類が撮影され、当委員会には上掲写真ほか3枚が寄せられました。当委員会は写真を検討した結果、額から後頸部が赤褐色であることなどからミナミクイナと同定し、336種目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

本種は、2007年に沖縄本島において国内で初めて記録され、その後は南西諸島で幾度か記録がありますが、今回の本県での記録は、南西諸島以外としては初記録となるものと考えられます。もともとは南アジアから東南アジア、中国南部、台湾にかけて生息する野鳥ですから、きわめて珍しい事例と言えるでしょう。なお、『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版(2015年)ではハシナガクイナという別名が併記されています。

## [鳥見人AとBの会話]から

- A** 「衛星追跡用送信機を装着した5羽のオオジシギのうちの1羽が、8/28 北海道の勇払原野を飛び立ち、約5,000 km離れたニューギニアのタナメラ湾付近に6日間の飛行で着いたとのこと。平均時速 40 kmで海上を一気に飛んだようです」(詳細は日本野鳥の会のHPなどをご覧ください)
- B** 「とすると 5000÷40=125、125時間を餌もとらず、不眠不休で飛び続けたのでしょうか」
- A** 「飛びながら脳が半分ずつ眠るそうですよ。食事は無しですね。旅立つ前に脂肪を腸の周りに蓄えて、Fat-4 辺りから旅立ち、現着した時は Fat-2 位まで痩せているとも聞きます(最大太りで Fat-5、最も痩せた状態で Fat-1)。鳥によっては平均体重の 30%増から 30%減位まで変化するそうです。人間に換算すると、平均体重 60 kg の人だと 78 kg から 42 kg まで変化することになりますね。カシラダカ位の大きさの鳥で 1 g の脂肪で 120 km 飛べるそうですよ」
- B** 「なんという燃費の良さ!」。 まだ旅は続くでしょうね。



## 野鳥情報

**さいたま市見沼区染谷～加田屋新田** ◇6月14日、ハシブトガラス5～6羽にからまれつつ飛ぶオオタカ成鳥1羽。遠くでツミの声。6月17日、電線にツバメの幼鳥7羽が並んでとまる。6月22日、シジュウカラとコゲラの混群。シジュウカラは幼鳥が圧倒的に多い。7月8日、オオタカ1羽、空高く飛ぶ。ツバメ数羽がまとわりつく。農耕地でコチドリ2羽。ハクセキレイ2羽が争い、追いかける。2羽の背の色に濃淡の差があるが、♂対♀？ それとも幼鳥とそれを追払う父親？ (小林みどり)。

**さいたま市見沼区大谷** ◇6月14日、市営霊園「思い出の里」でオオヨシキリ1羽、先月、巣材運びをしていた湿地でさえずる。6月23日、湿地で草刈り作業、オオヨシキリ1羽、作業している脇で平気な顔してさえずっているが、はたして巣は大丈夫？ 6月26日、オオヨシキリ2羽が湿地の縁のヨシの茎にとまっている。1羽はすぐに飛び立つが、もう1羽は茎にとまったまま。給餌をしていたらしい。どうやら無事に巣立ったようだ。少し離れた場所でさえずる1羽は、一家の父親なのだろう。奥さんもお子さんも元気で、よかったね(小林みどり)。

**さいたま市北区大宮第二公園** ◇6月21日、見沼代用水西縁に4羽の幼鳥を連れて来たカルガモ成鳥1羽、「ク、ク、ク」と小さな声で始終鳴いている。子どもたちに何か話しかけているようだ(小林みどり)。

**さいたま市見沼区片柳** ◇6月30日、コジュケイの声、キジの声。キジ♂1羽が道路の真ん中に出てくる。モズ1羽、高鳴きのような声で鳴く。コゲラ、シジュウカラ、エナガが混群になって枝移り。コゲラとシジュウカラは幼鳥だった。電線に並んでとまった2羽のカワラヒワ、1羽は成鳥で「ヴィーン」と鳴く。もう1羽は下面に縦斑がある。幼鳥のようだ(小林みどり)。

**さいたま市緑区芝川第一調節池E139. 71352 N35. 875767** ◇7月3日午前8時頃、レン

カク1羽(片桐徳子)。

**さいたま市見沼区山** ◇7月11日、電線にコムドリ8羽。時折、近くのブルーベリーの灌木で実を食べていた(鈴木紀雄)。

**蓮田市笹山** ◇7月12日、水田の畔などにサギ類、15羽。ほとんどがダイサギ、チュウサギだが、その中に最近少なくて感じるコサギ成鳥1羽、若鳥1羽。アマサギも1羽(鈴木紀雄)。

**蓮田市黒浜沼** ◇7月12日、なぜかオオヨシキリとツバメに追われるカワセミ若鳥1羽。カイツブリ1羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市大宮区大宮公園** ◇7月14日、ボート池にカイツブリ幼鳥1羽。少し離れた場所でも、カイツブリの幼鳥の声。池の北側の森からツミの声が聞こえてきた。日本庭園ではコゲラ、シジュウカラ、メジロの混群。この季節、混群に入っているシジュウカラは、幼鳥が多いようだ(小林みどり)。

**さいたま市浦和区本太** ◇7月23日、メジロなど(小荷田行男)。

**さいたま市中央区八王子5丁目** ◇7月24日午前9時頃、かやのき団地18号棟北側でアジサイ剪定作業中、けたたましい叫び声と共にツミ2羽が飛来し、数羽のオナガと入り乱れて木から木へ、屋上へと飛び回り、やがて大ケヤキの中へ落ち着いた。この間、作業の手がお留守になったのは言うまでもない(大塚純子)。

**秩父市大宮** ◇7月25日、山の斜面を見ているとアオゲラ♂1羽が「ケッケケツ」と鳴きながら木にとまり、採餌。遠くからウグイス、ガビチョウの声(鈴木紀雄)。

**さいたま市見沼区膝子** ◇7月26日、水田の畔で、草に隠れるようにオオジシギ1羽。過眼線の目先の細さ、体形、全体の色合い、そして伸びをした際の尾羽の状況からオオジシギと判断できた(鈴木紀雄)。

### 表紙の写真

#### スズメ目メジロ科メジロ属メジロ

このマユミには、11月になると、メジロやコゲラが、実を食べに寄って来ます。

又部綱仁(さいたま市)



## 行事案内



ジョウビタキ(プリングマン ウイリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費：**中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

**持ち物：**筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻：**特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

### 行田市・利根大堰探鳥会

期日：11月3日(木・祝)

集合：午前9時50分、秩父鉄道行田市駅南口。  
または午前10時30分、行田市元塚(もと  
いり)公園駐車場。

交通：秩父鉄道羽生9:36発熊谷行き、または  
秩父鉄道熊谷9:20発羽生行きに乗車し、  
行田市駅で下車。行田市駅南口から9:59  
発行田市内循環バス北西循環コース(左回  
り)に乗車し「老人福祉センター」で下車。

解散：元塚公園で午後 1 時 30 分ごろの予定。

担当：入山、近藤、佐野

見どころ：北国から渡ってきたカモたちを中  
心に観察します。運が良ければ、利根川を  
遡上するサケが見られるかも…。お弁当  
を持参し参加者全員で秋の一日を楽しみ  
ましょう。

その他：昼食持参。秩父鉄道はスイカ、パス  
モ等が使用できません。

### 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月5日(土)

バスのダイヤ改正のため、集合時間が早く、  
集合場所が南口に変更になりました。またバ  
スの運行時刻が早くなり、乗車場所、バス路  
線も変更になりました。

集合：午前 7 時 40 分、丸山公園南口付近

交通：JR 高崎線上尾駅西口③番バス乗り場か  
ら **尾 32** 西上尾第二団地經由リハビリセ  
ンター行 7:22 発で「丸山公園入口」下車

徒歩約 4 分

担当：吉原(早)、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、  
浅見(健)、浅見(徹)、大坂、近藤、立岩、  
永野、廣田、山野

見どころ：秋に彩られた早朝の静かな公園で、  
ジョウビタキやシメ、ツグミなど、到着し  
たばかりの冬鳥を探します。さて、今冬、  
初お目見えの鳥はどんな鳥？

### 春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月6日(日)

集合：午前 9 時 15 分、アスレチック広場前・  
第一駐車場。

交通：東武春日部駅西口、朝日バス③番乗り  
場 8:41 発春日部エミナース行きで、「共栄  
大学入口」下車。西へ徒歩約 7 分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、  
野村(弘)、橋口、吉岡、吉安

見どころ：いよいよ冬鳥の季節です。今季も  
ツグミ、シロハラ、アカハラ、ジョウビタ  
キ、タヒバリ、シメ、カシラダカらに再会  
しましょう。雑木林、屋敷林、田んぼ、ハ  
ス池、草地を探鳥します。(途中にトイレ  
休憩を設けます)

帰りのバス：下車したバス停から、13:07、  
14:20です。(9月現在の時刻表による)

### 羽生市・羽生水郷公園探鳥会(平日)

期日：11月10日(木)

集合：午前 9 時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルー

ト(ムジナもん号)で東武伊勢崎線羽生駅東口8:05発、南羽生駅8:22発で、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：落ち葉が舞い、渡って来た冬鳥の姿も見つけやすい待望の季節です。繁殖羽のヨシガモや上空を猛禽が舞う公園での、平日探鳥会にお出かけください。

帰りのバス：下車したバス停から14:51発です。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：榎本(秀)、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：どこからか聞こえるジョウビタキの声。渡来したばかりのツグミの群飛。いつもの林の小径はすっかり秋。木々の葉やカラスウリの実も色鮮やかに、皆さんのおいでをお待ちしています。

### さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月19日(土)

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場南側のベンチ付近。

担当：浅見(徹)、赤堀、浅見(健)、柏瀬、工藤、野口(修)、山田

見どころ：見沼自然公園とその周辺の農耕地や林で身近な野鳥を探します。途中のトイレ休憩は旧坂東家住宅(見沼くらしっく館)。懐かしい茅葺き屋根の農家の庭でジョウビタキが待っていてくれるかな。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月19日(土)午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、新部、畠山、増田

見どころ：見沼たんぼでの鳥見ベストシーズンです。ジョウビタキやカモ類等、定番の冬鳥がぞくぞくやってきますので、観察種も増えるかと思えます。初心者の方にとってつけの探鳥会。お気軽にご参加ください。

### 嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月20日(日)

集合：午前8時35分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線川越 7:58 発、または寄居 8:02 発に乗車。

担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林、川沿いの道を歩けば、ツグミ、カシラダカ、ジョウビタキ、シメ、アオジが、空には猛禽が飛び、紅葉した山々も眺められるでしょう。

### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日(水・祝)

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から国際十王バス 9:06 発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島

見どころ：昨年、一昨年とカモの到着が遅れ、ちょっと期待外れでしたが、今年はどうでしょうか。ベニマシコやオオジュリン、猛禽たちとの再会も楽しみです。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。

## 志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月23日（水・祝）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の駅寄りベンチ付近。  
担当：鈴木(秀)、佐久間、志村、神場、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、持丸、山口

見どころ：夏の大雨で川の中洲は変化しています。右岸と左岸、及び水谷田圃を冬鳥や猛禽を探して村山快哉堂まで歩きます。

ご注意：当日の同じ時間に別団体の行事があるため集合場所を従来より少し駅寄りに変更しました。

## 戸田市・彩湖探鳥会（平日）

期日：11月24日（木）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場8:12発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、石塚(敬)、石塚(真)、今村、新部

見どころ：旅の途中の水鳥たちが、ちょっと立ち寄る時季です。前日にいた鳥が姿を消し、また別の鳥が翼を休めに来る晩秋の彩湖。誰に会えるかは当日のお楽しみ。



昨年11月19日 彩湖探鳥会（編集部）

## 加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：11月26日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。  
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36  
→南栗橋 7:52→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線下り大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線に乗り換え、柳生 8:06 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、山田

見どころ：冬鳥が出揃います。晩秋の谷中湖で、カモに加えてチュウヒやミサゴなどの猛禽、ベニマシコやオオジュリンなどの小鳥を探します。

## 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線所沢8:39発、本川越8:49発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、島崎、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本(真)

見どころ：ツグミ、アオジ、カシラダカ、シメ、ジョウビタキ。冬鳥を探して、入間川の河原と、稲荷山公園を歩きます。

## 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月27日（日）

集合：午前9時、環境学習館前。

交通：JR 宇都宮線蓮田駅東口から朝日バス 8:50 発国立東埼玉病院行で「新井団地」下車。バス停から案内します。

担当：玉井、青木、内田、榎本(建)、小林(み)、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、星野、吉安

見どころ：冬鳥達が長旅を終えて里に帰ってきています。木立にはツグミやシメ、ヨシ原ではアオジやオオジュリンなどが枯れ残った葉に隠れています。見慣れた冬鳥達も久しぶりの再会には心踊ります。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく、北側に新しく出来た“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”を利用して下さい（環境学習館まで徒歩1分）。



## 行事報告

5月3日(火、祝) 幸手市 宇和田公園

参加: 37名 天気: 晴

キジ カルガモ コガモ キジバト シラコバト カワウ アオサギ ダイサギ コチドリ トビ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (30種) (番外: ドバト) シラコバトは探鳥会前から見られ、ほっと一安心。チョウゲンボウは今年も同じ工場で繁殖しているようで、よく飛んでくれた。江戸川でヒバリやセッカ、そしてノスリを見てから、水田地帯へ。今年の水が少なくお目当てのムナグロは見あたらなかった。公園へ戻ると隣接する砂礫地でピピピビの声。コチドリが探鳥会を締めくくってくれた。(佐野和宏)

5月5日(木、祝) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 71名 天気: 晴

ヒドリガモ カルガモ オナガガモ コガモ スズガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ チュウサギ コサギ バン オオバン ダイゼン コチドリ メダイチドリ セイタカシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ キアシシギ キョウジョシギ オバシギ トウネン ハマシギ ツミ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ ムクドリ オオルリ スズメ ハクセキレイ (41種) (番外: ドバト) 海からやってくるシギ・チドリで干潟は次第ににぎやかになってきた。渡りの途中に立ち寄ったオオルリも出た。終了後は、さらにたくさんのシギ・チドリ類を狙ってハヤブサが出現。頭上を飛ぶオオソリハシシギの羽音が凄かった。(杉本秀樹)

5月8日(日) 栃木県 日光戦場ヶ原

参加: 31名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ コガモ キジバト トビ ノスリ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス コガラ ヒガラ シジュウカラ イワツバメ ウグイス エナガ エゾムシクイ センダイムシクイ ゴジュウカラ キバシリ ミソサザイ カワガラス アカハラ コマドリ ノビタキ コサメビタキ キビタキ オオルリ ニュウナイスズメ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ アオジ (35種) 戦場ヶ原ではキビタキのパレード。前から後ろから美しい声が響く。湯川沿いでは、大スター「コマドリ」の登場。殆どの参加者が愛くるしい姿を見る事が出来た。途中キバシリ等、埼玉ではなかなか見られない鳥達を見る事が出来た。ゴールの湯滝駐車場でオオルリの囀りを聞いて終了。(入山 博)

5月8日(日) 熊谷市 大森生

参加: 29名 天気: 快晴

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ イカルチドリ コチドリ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ センダイムシクイ メジロ セッカ ムクドリ コサメビタキ キビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (28種) (番外: ガビチョウ) 「さえずりを聞こう」と出発。ムクドリ、スズメが虫をくわえて忙しそう。キジが鳴き、アオジがまだ残っていた。メジロが巣材を集めているところを皆で観察。コサメビタキをさえずりで探すと木の高いところにいた。河川敷では、コチドリ、イカルチドリ両方観察。セッカが鳴きホオジロがさえずっていた。カワラヒワ、シジュウカラ、ウグイス、メジロのさえずりを聞き、センダイムシクイをさえずりで探すと、梢付近にいた。キビタキの姿を、ほとんどの人が見られた。ガビチョウ、コジュケイ、そして池でカワセミの声を聞き終了した。(千島康幸)

5月8日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 18名 天気: 晴

キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト ダイサギ チュウサギ コチドリ イソシギ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッ

カ ムクドリ スズメ ハクセキレイ ホオジロ (27種) 元荒川沿いの道から田んぼを通り上沼までのコースを進んだ。スタートして直ぐにコガモ夫妻が珍しくまだ居残っていた。婚姻色のダイサギ、チュウサギ、コチドリ、オオヨシキリやセッカがこの季節らしさを示してくれたが、目玉のムナグロは3年続きの不在となってしまったのは残念。(玉井正晴)

5月14日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加: 23名 天気: 晴

キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ  
ダイサギ ツミ チョウゲンボウ ハシボソガ  
ラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツ  
バメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキリ セッカ  
ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ  
(21種) (番外: ドバト) 開始後間もなく梢のカ  
ワラヒワに場が和み、スズメが街灯の傘の間で  
営巣しているのを皆で観察。植物園ではシジュウ  
カラが囀り、セッカの声も遠く聞こえる。青空を  
背にタカが舞い、ヨシ原ではオオヨシキリが元気  
だ。身近な野鳥を楽しみ、愛鳥週間に相応しい探  
鳥会だった。(長嶋宏之)

5月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 84名 天気: 晴時々曇

キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ  
コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ チョウ  
ゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシ  
ブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒ  
ヨドリ ウグイス メジロ オオヨシキリ ムク  
ドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ  
カワラヒワ ホオジロ (27種) (番外: ドバト)  
出発早々、道路沿いの電柱の上にチョウゲンボウ  
♂。畑の至る所で、ホオジロやキジ、ヒバリが鳴  
き、コチドリのペアも発見できた。芝川ではカワ  
セミが飛び交っている。数少なくなったヨシ原で  
はオオヨシキリが大きな声で縄張りを主張。参加  
者を楽しませてくれた。(須崎 聡)

5月15日(日) 入間市 さいたま緑の森博物館

参加: 22名 天気: 曇後晴

コジュケイ カルガモ キジバト アオサギ  
ダイサギ トビ カワセミ コゲラ アオゲラ ハ  
シボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジ

ユウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ  
メジロ ムクドリ クロツグミ キビタキ スズ  
メ カワラヒワ ホオジロ (24種) (番外: ドバト、  
ガビチョウ) キビタキが囀れども、姿を見るの  
は至難。紛らわしく鳴くガビチョウも旺盛で、遠  
くにはクロツグミの声も……。"聴き分けテス  
ト"が続いたが、縄竹橋付近でクロツグミの姿を  
数人ながら確認し、帰路綺麗なキビタキを全員で  
確認できた。ヤマガラは巣立ち雛にも出会え、ソ  
ングシャワーもたっぷり浴びて、この時期ならで  
はの耳に残る探鳥会。「ガビチョウに負けどく  
クロツグミ 吾こそ主役と音吐調々」(石光 章)

5月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、  
大坂幸男、小林みどり、志村佐治、長野誠治、松  
村禎夫

5月21~22日(土~日) 長野県 戸隠高原

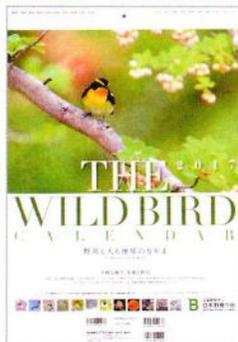
参加: 23名 天気: 晴

キジ オシドリ マガモ カルガモ キンクロハ  
ジロ カイツブリ キジバト ホトトギス ツツ  
ドリ カッコウ ハチクマ トビ オオタカ ノ  
スリ フクロウ コゲラ オオアカゲラ アオゲ  
ラ アカゲラ サンショウクイ ハシボソガラス  
ハシブトガラス キクイタダキ コガラ ヒガラ  
シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エ  
ナガ センダイムシクイ ゴジュウカラ キバシ  
リ ミソサザイ クロツグミ アカハラ コルリ  
コサメビタキ キビタキ ニュウナイスズメ ス  
ズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ  
イカル ホオジロ ノジコ アオジ クロジ (49  
種) 植物園でエゾハルゼミが鳴き始めていた。  
こんなに早いのは初めてだ。みどりが池で常連の  
カイツブリに加えて、カルガモ、マガモ、キンク  
ロハジロと3種のカモ。これも初めてだ。鏡池ま  
でにキバシリ、キビタキ、アカゲラを観察。その  
後、隋神門から奥社入り口へ。3時を過ぎるとエ  
ゾハルゼミも鳴きやみ、鳥を探しやすくなった。  
クロツグミの囀りで姿を見つけることができた。  
翌日の早朝探鳥ではノジコの姿をようやく発見。  
朝食後、みどりが池まで戻ると、巣箱からフクロ  
ウの雛が顔をのぞかせている。その後、オオアカ  
ゲラも見ることができて、満足。(菱沼一充)



● **ワイルドバード・カレンダー2017 発売**

「多様な風景 多様な野鳥」をテーマにした一般公募に、全国から寄せられた2,039点の力作の中から選ばれた12枚の写真には、日本各地の野鳥がくらす風景が切り取られています。そこには、野鳥はもちろん、人のくらしや、魚、草や木など、たくさんの生き物がいます。カレンダーを通して、日本の自然環境の多様さをお楽しみください。



税込み定価1,512円、会員価格1,296円のところ、埼玉会員価格1,290円で販売します。

売れ残りが出ないように数を抑えて仕入れられますので、探鳥会などで見かけましたら、お早めにお求めください。

● **2016 年度リーダー研修会開催(速報)**



9月4日(日)午前9時30分から埼玉県自然学習センター(北本市)で開催。大畑祐二、

柏瀬政己、黒田清恵、島崎敦、高崎康晃、5名の新人リーダーが誕生しました。詳しくは、「行事報告」欄で報告します。

● **会員数は**

10月1日現在1,730人。

**活動と予定**

● **8-9月の活動**

8月24日(水)「見沼・さぎ山交流ひろば」第2回運営協議会(さいたま市さぎ山記念館)に出席(小林みどり)。

9月10日(土)『しらこぼと』10月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

9月18日(日) 役員会(司会:近藤龍哉、各部の報告・行事予定の一部変更・その他)。

9月20日(火)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』10月号を郵便局から発送(事務局)。

● **11月の予定**

11月5日(土) 編集部会。普及部会。

11月12日(土) 12月号校正(午後4時から)。

11月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

11月20日(日) 役員会(午後4時から)。

**編集後記**

聞いた話によれば、ある支部では、会費切れ退会になって数年たつのに、未だに探鳥会のリーダーをやっている人がいるという。退会になれば当然、会報が来なくなる。そこで気付くはずだ。この人は、会報を読んでいなかったのか？ 他人事ではない。我が会報はちゃんと読まれているのだろうか？ 不安になってきた。(泥蜥蜴)

しらこぼと 2016年11月号(第391号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 郵便振替 00190-3-121130 <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 [office@wbsj-saitama.org](mailto:office@wbsj-saitama.org)  
 編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 編集部への野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 [gyomu@wbsj.org](mailto:gyomu@wbsj.org)  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社